

監獄改良・慈善事業家エリザベス・フライの実践と現代的意義

—人格的感化、支援の組織化、制度化へのアクションを通して—

○ 田園調布学園大学 金井 守 (6302)

キーワード：監獄改良、慈善事業、エリザベス・フライ

1. 研究目的

エリザベス・フライについては、ドイツのキリスト教社会福祉の歴史書の中で、看護が衰退したいわゆる「暗黒の200年」を打ち破ったフローレンス・ナイチンゲールとともにヨーロッパに新しい改革の息吹をもたらした人物として紹介されているのを初めて目にして関心を持つようになったことが最初である。

ここでは、19世紀前半に活躍した監獄改良・慈善事業家エリザベス・フライの実践を素描し、その実践の特質を整理することを通して、現代社会福祉における意義を探る。時代は異なるが、彼女の実践が現代の社会福祉につながるものがあり、社会福祉実践者及び研究者に刺激を与え問いかけているとの認識である。

2. 研究の視点および方法

エリザベス・フライによる実践の特質に関する視点として、①人格的感化、②支援の組織化、③制度化へのアクションを挙げ、彼女の実践を整理する。

現代的意義に関する研究の視点としては、

- (1) 人間の尊厳の回復の視点、
- (2) 社会から排除された人々を社会に包み込むソーシャルインクルージョンの視点、
- (3) 女性市民の社会参加の視点、
- (4) 国境を越えた人間社会の根底にある問題解決の視点、を取り上げ、研究に臨む。

研究の方法として、文献資料の精査を行い、現地調査の結果や印象を加えて、実践の特質と現代的意義について、各視点に基づき再構成し、考察を加える。

3. 倫理的配慮

研究における知的誠実さと倫理を遵守する。具体的には、以下の通りである。

引用は、自説と他説を峻別し、他説の引用は厳格にし、出典を明示する。現地調査は、公的建築物の見学や公共図書館の利用に限定され倫理上問題はない。なお、現地調査は、平成24年度独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業により実施したことを報告する。

4. 研究結果

エリザベス・フライ（Elizabeth Fry 1780－1845 イングランド）の社会的活動は、監獄改良事業を中心として、他に、流刑囚の支援、厚生保護、慈善救済事業、児童のためのナイトシェルターの創設、病者のケア、看護学校の設立、フレンズ派キリスト教徒（クウェーカー教徒）としての説教者の役割等多岐にわたっている。個人的には、11人の子供を生き育て、母親としての責任を果たしている。イギリス5ポンド紙幣にも印刷され、まさに国民的ヒロインとして尊敬を集めている。

エリザベス・フライの実践の特質について、「人格的感化」に関しては、ロンドン・ニューゲート監獄における女性受刑者に対する講話や監獄内の児童に対する学校の開設に代表されるキリスト教的人格的感化による人間性の回復と生活改善が目指され、成果を得ている。「支援の組織化」では、ニューゲート監獄を訪問する婦人の会の組織化を初めとして全イングランドに渡る訪問組織や他にも慈善にかかる婦人達を組織化している。「制度化へのアクション」では、監獄改良について国会で意見を述べ、所信をまとめ出版して制度改正に向けたソーシャルアクションを行った。これらの実践を通して、

- (1) 社会の最底辺にいる人々などすべての人間の‘尊厳’の重要性を示しその回復に努め、
- (2) 女性受刑者とその子供、貧困者、病者など社会から排除された人々を社会に包み込むソーシャルインクルージョンを実践し、
- (3) 一人の主婦・女性市民として積極的に社会活動に参加し、
- (4) フランス、オランダを初めとしたヨーロッパ諸国の監獄や保護施設、病院を訪問し、各国の為政者に監獄改良や人道主義を訴え、国境を越えた人間社会の根底にある基本的問題解決に当たった、と総括することができる。

5. 考察

人間の尊厳の保持は、社会福祉法に規定されているように現代日本における社会福祉の重要理念である。時代状況は異なるが、19世紀前半のエリザベス・フライの活動もそれを目指している。尊厳の保持は、時代を超えた普遍的理念であると言えるが、現代はこの理念が多くの人に共有化されここを基点に福祉実践に取り組むことが可能となっているとも言える。しかし、虐待や社会的排除がなくならないどころか状況が悪化する危険もあり、尊厳と権利擁護の意識と実践を強めなければならない。ソーシャルインクルージョンの取り組みや女性市民の社会参加についても、まさに現代的課題であり、障壁を乗り越え、一層の具現化が期待される。国境を越えた取り組みについて、ソーシャルワーク自体の普遍化、EU諸国を初めとして経済・社会統合が進む方向性にあること、障害者権利条約のように国際的取決めを遵守することなどから、広域的・グローバルな認識と活動が求められている。

今回エリザベス・フライから多くを学ぶことができたが、今後も私たちに活力を与える源泉としての役割を果たしてくれると考えている。